

バッファの必要性

バッファの必要性を述べる前に、そもそもバッファとは、物理的な急激な変化・変動を吸収・緩和する緩衝器と定義される。分かりづらいと思われるから例を提示する。

- ・ PCのキャッシュメモリ：CPU⇔記憶装置
- ・ 自動車のハンドルの遊び、ショックアブソーバー
- ・ コンデンサー（電子回路）電圧安定、ノイズ除去
- ・ 治水・利水を目的としたダム
- ・ ・ ・ 枚挙に暇がない。しかし、その大多数がユーザーにバッファとして意識されずに利用され、設計者もバッファを意識したと言うより、不確実な変動に対処する術の一つとしてそれらの機能を開発・利用し、結果としてバッファとなっているのであろう。

もし、バッファが無ければ、どうなるのだろうか。例えば自動車のハンドルの遊び。無いと突発的なやむを得ないハンドル操作により、車輻がスピンや横転したりして、運転者ならびに同乗者の生命を危険に晒すことになる。また、他の通行車輻を巻添えにし、それらの運転者や同乗者の生命さえも危険に晒す可能性や通行人がいれば、その方達の生命を危険に晒す可能性も十分あり得る。車輻が制御不能状態になり得ることが、その所以。

もう一つ、自動車のショックアブソーバ。無いと、路面の凹凸に車輻が過敏に反応し、飛び跳ねることになる。その第一義的弊害は、制動効果の顕著な減退。その結果、自他の生命を危険に晒す可能性や危害を加える可能性が発生する。対物的にも同様である。二義的には、その車輻の燃費が著しく悪化すること。何れにしても、要因は車輻と路面の接触が激減することに由来する。つまり、タイヤの摩擦を十分利用できないことである。上記2例のみであるが、バッファが無いことによる弊害は、他にも容易に想像可能である。

経済活動を対象とし、その領域をB2B・B2Cに関わらず、モノやサービスの提供により、その対価を得られる仕組みと抽象的に捉えたと、それらモノやサービスのサプライチェーンにバッファがないと、何らかの悪いトリガーによって、一番弱い箇所での供給が切れること必至となる。しかし、バッファを採用している意識がなくても、工程内・過程内に仕掛品・在庫・ノウハウの蓄積があれば、リードタイムが遅延する可能性が残るものの、その供給の流れが途切れることはない。（ここでのリードタイムとは、原料の投入から完成品が出来上がるまでの期間と、受注から納品までの期間の両者とする）

生産管理に携る方においては、釈迦に説法となるのであろうが、一般論として、工程内・過程内にバッファの数や量が多いと、一概に言えないかもしれないが、リードタイムが遅延する＝生産性が低下する傾向にある。逆に少なすぎても同様の傾向となる。何れにしても、バッファが無いと何らかの悪いトリガーにより、一番弱い箇所ですばいチェーンが切れてしまい、復旧までに大きな「機会損失」を被ることを意識する必要がある。

拙著は、お鮪に関する件であるから、お鮪に「何故バッファが必要か」と問われるのであろう。その対象は、素材（ネタ）の調達に他ならない。主な原料の米や酢等の生産は比較的安定していて調達の懸念とはならない。しかし、ネタの多く（鮮魚分類）は、その主な生産手段が漁獲である限り、毎日大きく変動する。事実であるし、例外はない。では、需要側に変動要素が無いのかと問われれば、答えは、大いにある。需要と供給が大きく変動しあい相関関係はなく、各々独立した事象である。そこで（流通）バッファ（活在庫）が必要となる。即ち、蓄養である。畜養は、以下の3つの目的を包含する。

①流通バッファ：漁獲のバラツキと需要・消費のバラツキの緩衝

②育成：幼魚を成魚に育てる。養殖と同義

③付加価値を与える：太らせる。脂のせる。休ませる。洗浄する等

現状無いから、恒常的に大きな機会損失を皆（生産者～消費者）が被っている。